



スポーツバイクニュース

～中級レベルのメカニック向け実践的作業事例～

平成29(2017)年9月29日 Vol. 18

隔月発行

今泉紀夫のMTB診断術—Vブレーキによるリムの摩耗

このMTB診断術は、自転車販売店でのMTBの修理・調整作業を紹介しています。ワークショップモンキーの今泉紀夫さんが、自身の経験に基づいた実際の事例から作成したモデルケースです。自転車販売店の中級レベルのメカニックを対象にしているため、基本的な名称、説明等は省略しています。作業は必ずメーカーマニュアルに従って行ってください。

持ち込まれたMTBの状況

エントリーモデルのMTBで、前後Vブレーキ、フロントサスペンション仕様でした。当店で点検修理を継続していて、前回のときにはリアリムのインジケーターの溝(エクスターナル)が消えかかっていた。片側でも消えたら危ないので、その際にはすぐに来店されるようにお話ししました。それからかなりの時間が経過しました。今回持ち込まれたMTBを拝見すると、リアリムのサイドウォールのブレーキ面が削れ、片側のインジケーターの溝が消えていました。

MTBの利用状況を確認

点検修理にお越しになられていたのでMTBの利用状況は把握していました。

このお客様は週末に近くのサイクリングロードを走られていて、ほぼ毎週末サイクリングを楽しんでいました。このためMTBにも使用感がありました。念のためお客様に現在のMTBの利用状況を確認したところ、これまでと変わっていませんでした。

フロント・リアリムの状態を確認

お客様の了解を得た後、フロントとリアリムの状態をしっかりと確認するために掃除をしました。リアリムの片側のインジケーターの溝が消えていることに加え、さらに、ハトメの部分に小さな亀裂が入っていました。



フロントリムのインジケーターの溝

リムの摩耗、亀裂についての説明

このMTBにはVブレーキが装備されています。リムのサイドウォールにインジケーターの溝がある理由は、ブレーキをかけることによるブレーキシューとリムのサイドウォールのブレーキ面の摩耗の程度を可視化するためです。リムのブレーキ面は摩耗すると少しずつ薄くなっていきますが、それにつれてインジケーターの溝も浅くなっていきます。

ハトメ部分の亀裂は色々な原因が考えられますが、原因のひとつとして、スポーク張力のバランスが悪くなったことにより、ハトメの特定の部分に力が集中してしまったことが考えられます。

作業方針についての説明

リアリムを交換しなければなりません、大きく2つの作業方針が考えられます。まず、リアリムだけを交換する場合です。タイヤ、チューブ、スポーク、フリーハブなどを取り外したのちホイール組を行う作業になりますが、作

業時間が長くなりがちです。次に、リアリムを含めたホイールごと新品に交換する場合があります。ホイール組を行うよりも確実に作業時間は短くなります。いずれにしてもMTBをお預かりしなければなりません。お客様はスポークなどリアリム以外の部品のダメージを考慮され新品のリアホイールへの交換を選ばれました。

ところで、MTBのリムと一口にいてもその種類は非常に多いのです。特徴的なのは用途(クロスカンтриー、オールマウンテン)、サイズ(26インチ、27.5インチ、29インチ)、ブレーキ(Vブレーキ、ディスクブレーキ)、タイヤ(チューブレス、クリンチャー、チューブラー)など、ここでは一例を示したに過ぎませんが、多岐にわたっており、選択肢の多さがMTBの魅力のひとつにもなっています。

リムの使用上の注意

新品のリアホイールに交換しお客様にMTBをお引渡しする際に、お客様によってはすでに基本的な知識をお持ちの方もいます。そのようなお客様の場合には、リムの使用上の注意について一通り説明した後、Vブレーキとリムのサイドウォールのブレーキ面との関係に的を絞り丁寧に説明していきます。例えば、リムのサイドウォールはブレーキ面であること、雨天時に影響を受けやすいこと、ブレーキシューと擦れることによりリムのサイドウォールが摩耗しブレーキ面が薄くなってくること、ブレーキシューの適正な位置確認とゴミや金属片の除去などの日常のお手入れ、リムのインジケーターの種類(インターナル、エクスターナル)や役割などです。時間が許すのであれば、油圧式ディスクブレーキについて説明を付け加えることができれば、なおいいでしょう。

リムの摩耗事例

リムは安全に係わるとても大切な部品です。MTBに長く乗れば乗るほどそれが顕著に表れます。極端な例かもしれませんが、MTBで世界旅行に行かれた方のリムはVブレーキのブレーキシューとの摩擦で薄くなり、サイドウォールに円を描くように線が入り一部切れています。日常ではこのような状態になることは稀ですが、少しずつリムは擦れ薄くなることが実感できると思います。



世界旅行で使用した擦り切れたリム

最後に

リムは消耗品で永久に使用することはできません。そして、安全に走行するために大切な部品のひとつであることは間違いのないのです。ご自分で行える日常点検に加えて、自転車販売店での定期点検や修理・調整作業がとても大切です。

今回のモデルケースでは、お客様のご希望とMTBの利用状況によってという条件付きになりますが、Vブレーキから油圧式ディスクブレーキへの交換も考えられたかもしれません。多くの選択肢の中からお客様にあった作業をご提案することができるかどうか、お客様と自転車販売店との確固とした信頼関係の構築につながるのではないかと思います。



<監修>

ワークショップモンキー 今泉紀夫(いまいずみ のりお)

URL: <http://www.monkey-magic.com/> 住所: 東京都豊島区高田 3-13-6-102

MTBメンテナンス解説書の監修を手掛け、知識と技能は国内トップクラスにある。

オリジナルフレームの開発でも有名。SBM(スポーツバイクメカニック)認定講師